



「宝さがし」

今回番組取材で参加したのが「たかまつ松平藩 まちかど漫遊帖」。高松松平藩をキーワードに企画された高松市内の町歩きツアーです。この秋実施されました。案内するのは自ら企画した市民の方、市民ツアープロデューサーの皆さんです。15種類のツアーがあり、どれもユニークかつ為になるツアーでした。私は15あるツアーのうち3つのツアーに参加いたしました。どれも約2時間から3時間歩きっぱなしのツアーで少々……筋肉痛！しかしその痛み（笑）以上に楽しく思い出深いツアーでした。その中でお会いしたお一人が、高松市仏生山にお住まいの大正生まれ、御歳81歳の橋本タカ子さん案内による『仏生山の語りべ橋本タカ子の時ばなしツアー』。これは仏生山にある法然寺を約2時間かけてご紹介いただくツアーでした。法然寺は健永2年（1207）法然上人が四国に流されてお住みになったという小松庄生福寺の遺跡を、高松松平藩初代藩主・松平頼重公が復興して高松松平藩の菩提寺としたものです。ここまではなんとなくご存知の方も多いかと？？？が……橋本さんに言わせれば「法然寺」を紹介するには2時間や3時間では足りない、それほどいいお寺さんなんだということです。そう法然寺はかなり広いんですね。頼重公が作られた時は6万544坪半、現在はその三分の一とはなりました

が、それでも2万5千坪もあります。ツアーは仁王門からスタート、石畳の階段を（男坂）を松平家歴代の墓所（来迎寺山）へと登ります。途中、二尊堂（ここは木造でありながら、シルクロードに見る石窟寺院の龕の形式が用いられているそうです）や鐘楼門もあります。下りは本堂へ向かう女坂、かなりゆるやかで着物を着た女性でも登れるようにと階段の幅も広がっていました。本堂へのお参りの前にお茶室の紹介、お茶室からは創建当時屋島が綺麗に見えたそうです。広い庭が不思議とない法然寺、庭は屋島で十分という殿様の粋なはからいようです。そうそう、ここ法然寺は寺としての役割だけで創られたのではないとか、三十三の門、二十以上の井戸、寺のまわりには三つの池、引接寮とよばれる建物には常時200人の若い修行僧が警護に当たっていたとか。いざ戦がはじまるという時には、城としての役割を十分果たす場所でもありました。高松の北には水城玉藻城が、東には春日川、西には香東川、南はこの法然寺が守りの要として阿波・土佐・伊予からの攻撃に備えていたというのです。そんな法然寺にはお宝がいっぱい、初代藩主頼重公の生前の姿の像（かなりハンサムでした）や本堂には法然上人が彫られたというご自身の像、本堂を通りすぎると讃岐の寝釈迦といわれる涅槃図をそのまま立体的に再現

つもちゃんの

ドク
バタ
ラジオ日記

した釈迦堂（庄巻です！）などなど、タカ子さんが案内をしてくれました。タカ子さんの情熱あふれる語りに終始感動です。仏生山に生まれ育ち、朝夕と打たれる法然寺の鐘を聞きながら暮すタカ子さん。法然寺の古文書読みたさに60代後半から四国学院大学に通い勉強もされた方です。こんな短い時間では語りつくせないというタカ子さんに「法念寺は讃岐のルーブル美術館みたいですね」と言うと、ニッコリ笑って「私ルーブル行ったことないけど、とてもうれ

しいわ」とおっしゃってくださいました。

タカ子さんが愛してやまない仏生山という町そして法然寺、まさに宝の宝庫です。そして、今回取材させていただいた「まちあるき」にはどれも宝がいっぱいでした。「高松松平藩まちかど漫遊帖」の発起人のお一人N氏の言葉が印象的でした。「讃岐は宝がいっぱいあります。でも探さないと掘り起こさないと見えてこないんですよ」と…

宝さがしの旅もいいなあと思った2006年の秋でした！

お す す め 取材日記

「鷺岡漢方堂薬局」

ユニークな漢方のお店を見つけました。ここでは台湾式の烏龍茶教室があります。

お店の一角にテーブルと椅子がありまして、烏龍茶をおいしく頂きながら（お菓子付きです）、台湾式の入れ方を学べるのです。茶葉も本場台湾に直接行かれ、仕入れたものだから（知人の方で台湾でお茶畑をもってらっしゃる人がいるそうです）。高級な烏龍茶は黄金色をしていて甘みがあるんですね。はじめて知りました。

ホットー息するお茶ですね、烏龍茶は……。ほかにもカラーセラピー、料理教室なども行っている漢方堂薬局さんです。

<住所>丸亀市中府町1-6-58

<電話>0877-24-3455

<営業>10:00~20:00

